

【資料】



本時で使用したチョコレート



授業の導入で提示した写真



NPO 法人 ACE の HP で児童労働の実態を捉えさせた



フェアトレードのチョコレートとその他のチョコレートを見比べる児童

カカオ生産地での児童労働の現状

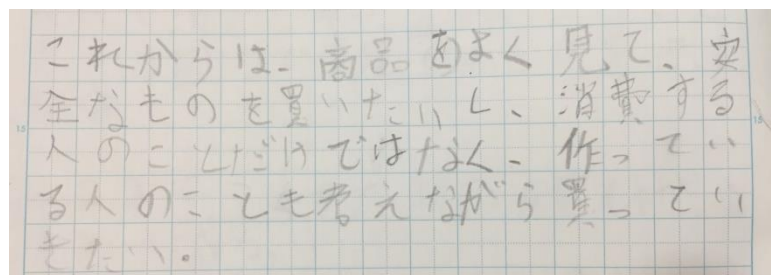
IITA（国際熱帯農業研究所）が実施した西アフリカのカカオ生産における児童労働の調査

(*1)では、コートジボワールだけで約13万人の子どものが農園での労働に従事しています。カカオ農園は小規模な家族経営である場合が多く、子どもが家族の手伝いとして働いている場合もありますが、1万2000人の子どもが農園経営者の親戚ではない子どもだったそうです。また、農園経営をする家庭の子ども（6～17歳）の3分の1は、一度も学校に行ったことがありません。その中には「何らかの仲介機関」によってこの職についている子どももいて、他国から誘拐され奴隷として売られて強制的に働かされているという報道や他の文献の指摘を裏付けています。この調査では、西アフリカのカカオ農園で働く子どもの64%が14歳以下と報告され、カカオ栽培の労働集約的な作業、特に農薬の塗布や刃物の使用などは子どもの身体に危険をもたらす可能性が高いと言われています。

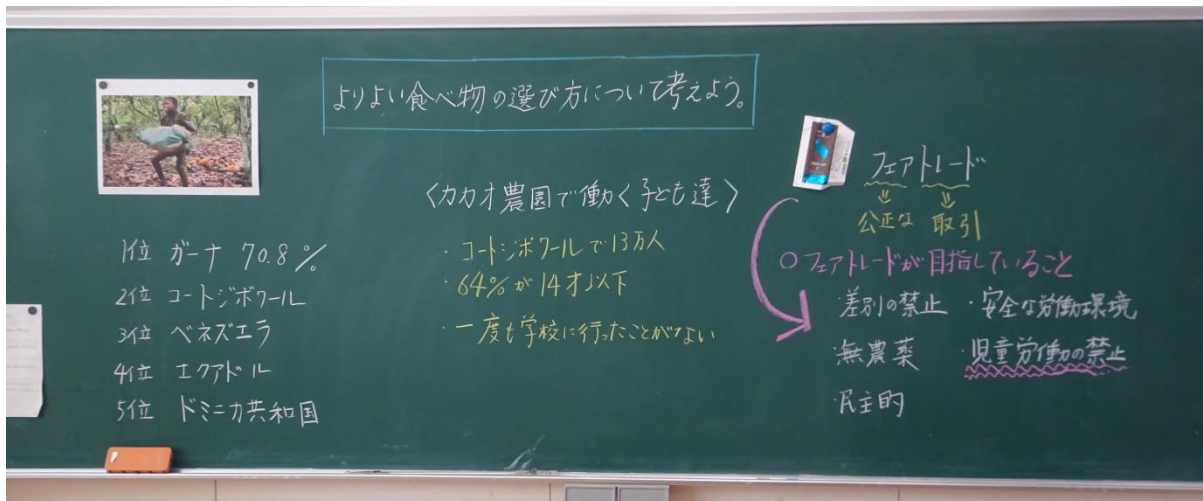


(*1)2002年発表、世界カカオ基金、米国国際開発庁及び労働省、ILO、各国政府の協力の下実施

資料として提示した ACE の HP の一部



児童の学習感想



【児童の感想】

- ・これからは、商品をよく見て、安全なものを買いたいし、消費する人のことだけでなく、作っている人のことを考えながら買っていきたい。
- ・一度も学校に行けなくて、働かなければいけないのがすごく悲しいと思いました。これから、フェアトレードが続いていけばいいなあと思いました。
- ・ぼくは、今まで生産者のことをあまり考えずに買っていたけど、今度からは進んで生産者のことを考えて買うことにしたいです。
- ・今日、この学習をして分かったことは、コートジボワールには、約13万人の子どもが農園で労働しているということです。
- ・今日、勉強して「フェアトレード」は、いいことを目指していると思ったので、フェアトレードの物を見つけたら、買いたい。生産者のことも消費者のことも考えて買いたい。

【考察】

この授業を实践して、概ねねらいに到達できたのではないかと考える。その理由は、「チョコレート」という身近な食べ物と、児童にとって、自分達とほとんど年齢の変わらない子ども達のことを題材として扱ったからではないだろうか。また、実物のフェアトレードの製品を準備し、また、フェアトレードの目指すところを資料を用いて捉えさせた点も有効であった。

ただし、反省点もある。まず、フェアトレードについて、指導者も児童も理解が浅いということだ。フェアトレードの製品は、他にも多数存在し、目指すところは児童労働の撤廃だけではないということを十分に認識した上で、指導する必要があると感じた。今回実践するうえで、自分自身もある程度の知識を得て臨んだわけだが、より正確で広い知識をもたなければならぬ。今回の児童の感想を見ると、

「生産者のことを考える」ということに留まっており、深まりが足りなかった印象がある。

最後に、今回は社会科で実践したわけであるが、「消費者教育」の分野は、家庭科、総合的な学習の時間、道徳、外国語活動、というように教科横断的に扱っていく必要があるのではないだろうか。今回は、題材の良さに加えて、取り組みやすさという点も加味して、社会科を選択したが、工夫することによって、様々な教科で取り扱うことができる。また、「消費者教育=物の買い方、お金の使い方」のみではないので、教師自身が、幅広い分野に関心を持ち、決して授業の中だけで触れていくのではなく、日常的に児童と共に考えていく機会を設けていかなければならない。